

## 上大津地区小学校の適正配置について

### 1. 上大津地区小学校の適正配置に向けた平成29年度の取り組みについて

#### (1) 関係者への説明 別冊資料

平成29年4～5月 上大津地区小中学校関係者（校長、教頭）等への説明

6月 上大津地区小学校のPTA役員への説明

8月 上大津地区小学校の保護者及び地域住民への説明

資料P1～4

<説明内容>

上大津地区小学校の現状と今後の推移、課題について

#### (2) 上大津地区小学校適正配置検討委員会の設置 資料P5

##### ① 第1回検討委員会（平成29年11月17日開催） 資料P6～7

<議事内容>

- 委員長及び副委員長選出
- 適正配置検討委員会設置の趣旨について
- 適正配置実施計画策定までの日程等について
- 保護者及び地域住民説明会の実施結果について

##### ② 第2回検討委員会（平成30年2月16日開催）

<議事内容>

- 「土浦市立小学校及び中学校適正配置等基本方針（平成23年2月策定）」について

- ・学級数による通常学級の適正規模

小学校：12学級以上24学級以下（1学年2学級以上）

中学校：9学級以上18学級以下（1学年3学級以上）

- ・学校の適正配置、適正規模に向けた方策

方策1：通学区域の見直し

方策2：隣接する学校との統合

方策3：学校の再編成・新設

<上大津地区小学校の課題>

- ・上大津西小学校及び菅谷小学校の児童数が減少し、適正規模（12学級以上）を満たさない。  
（上大津西小学校においては、平成33年度より複式学級が複数になると見込まれている）
  - ・上大津東小学校の児童数が増加し、学校施設の許容能力が平成36年度に限界となる。
- 上記課題を踏まえ、平成36年度に新しい学校をスタートさせることを想定し、適正配置の方策別シミュレーションを行った。

- 具体的な適正配置シミュレーション【方策1：通学区域の見直し】 資料P8

- ・上大津東小又は神立小の通学区域の一部を上大津西小又は菅谷小の通学区域に編入するシミュレーションを検討した。（計4パターン）

[結果]

- ・上大津西小及び菅谷小を適正規模とすると、上大津東小及び神立小が適正規模を満たさなくなるため、通学区域の見直しによって上大津地区の小学校すべてを適正規模とすることはできない。

○具体的な適正配置シミュレーション〔方策2：隣接する学校との統合〕 資料P9  
〔方策3：学校の再編成・新設〕

- ・想定される統合パターンとして、以下の6パターンを検討した。

ア：上大津東小・上大津西小+菅谷小・神立小（適正規模に満たない2校の統合）  
イ：上大津東小+上大津西小+菅谷小・神立小（神立小を除く3校の統合）  
ウ：上大津東小・上大津西小+菅谷小+神立小（上大津東小を除く3校の統合）  
エ：上大津東小+上大津西小・菅谷小+神立小（上大津地区を南北で分け、それぞれ統合）  
オ：上大津東小+菅谷小・上大津西小+神立小（上大津地区を東西で分け、それぞれ統合）  
カ：上大津東小+上大津西小+菅谷小+神立小（4校すべての統合）

[結果]

- ・統合シミュレーションの結果、以下の3パターンについては、それぞれ課題がある。
  - ア：統合校が適正規模を満たさない。（6学級）
  - オ：統合校が適正規模を満たすが、通学区域が連続しなくなる。（上大津東小+菅谷小）
  - カ：統合校が適正規模を超過する。（36学級）

<主な意見> 資料P10~12

- ・児童の安全確保上、登下校において常磐線を横断することは望ましくない。
- ・神立小を除いた3校での統合がいいのではないか。
- ・統合校を新設するのであれば、五中付近がいいのではないか。
- ・上大津西小の複式学級は早期に解消する必要があるため、まず菅谷小等と統合させるなど、段階的な対応が必要である。

次回以降の検討委員会についても、保護者や地域住民などの意見を踏まえ、引き続き上大津地区小学校の適正配置の方向性について協議、検討を行う。

## 2. 今後の予定（案）

平成30年	7月	第3回検討委員会
	10月	第4回検討委員会 →適正配置中間提言（上大津西小の早期対応について）
平成31年	2月	第5回検討委員会
	3月	保護者及び地域住民説明会（小学校区ごとに各1回実施）
	6月	第6回検討委員会 →適正配置実施計画の提言（上大津地区全体について）
	10月	適正配置実施計画の策定
平成32年	4月	上大津西小の早期対応案の実施



上大津地区全体の適正配置に着手